

福島第一原発における再臨界の頻発の可能性

日沼洋陽 yoyo.hinuma@gmail.com

2011年8月18日 午前7時作成

横浜市の空間線量を見る限り、福島第一原発で再臨界が続いているとしか解釈できない状態になっています。

http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kankyou/saigai/data/kako_data.html

8月6日までは、いくつかのピークを除き、線量は徐々に27まで低下してきました。少なくとも、4月に入ってからは、「頻繁に見られる数値（ベースライン）」が上昇することはありませんでした。

しかし、7月27～31に線量が高い数値(28, 29)で推移し、さらにいくつかのピークが発生していたことから、この期間に複数の再臨界イベント、および長期間にわたる放射能漏れが発生していたと解釈できます。8月7日からは数時間以上の間、線量が27に戻れたのは8月14日夜～15日午前しかありません。大規模なピーク発生→直後にベースライン上昇という傾向が見られない為、その上1日弱ですがベースラインを27に戻せたことから、放射性粒子自体が新たに降り注ぎ続けていると解釈しました。8月18日7時時点で線量が2日半も27に戻れていない上、この2日半で29以上が数時間以上続くことが2回発生していることから、

8月中旬以降、福島第一原発では臨界状態が起きているのが当たり前で、その上に規模が大きい即発臨界が発生している

と判定しました。